研究・調査報告書

報告書番号	担当
３１	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門

題名（原題／訳）

Contribution of tobacco and alcohol to the high rates of squamous cell carcinoma of the supraglottis and glottis in Central Europe.

中央ヨーロッパで上声門癌及び声門癌に扁平上皮癌が多いことと、喫煙・飲酒との関連について

執筆者

Hashibe M, Boffetta P, Zaridze D, Shangina O, Szeszenia-Dabrowska N, Mates D, Fabianova E, Rudnai P, Brennan P.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Am J Epidemiol. 2007 Apr 1;165(7):814-20.

キーワード

飲酒、癌、扁平上皮、ヨーロッパ、声門、喉頭癌、たばこ

要　旨

目的：

中央ヨーロッパにおける喉頭癌の罹患率は世界的に最高のレベルにある。たばこと飲酒の喉頭癌に及ぼす影響について調べる。

方法：

2000年から2002年の間に、症例対照研究としてCentral and Eastern Europe Multicenter Study（中央・東ヨーロッパ多施設研究）を行った。症例として254例の声門癌、108例の上声門癌を含む384例の扁平上皮癌患者を対象とした。対照例は同じ地域から選んだ喫煙・飲酒と関連のない疾患にかかっている患者918名とした。

結果：

上声門癌と声門癌において喫煙の頻度及び期間と罹患の間に有意な量一反応関係が見られ、この傾向は上声門癌においてより顕著であった。5年以上禁煙している者は、現在喫煙者より有意に喉頭癌のリスクが小さかった。飲酒による扁平上皮癌、上声門癌、喉頭癌罹患のリスク増加は概ね中等度であり、有意な関連はなかった。喉頭癌に関して喫煙と飲酒の間には、有意な交互作用を認めた（p値：0.04）。中央ヨーロッパにおける喉頭癌症例の約87%が喫煙によるものであり、そのうちの75%が現在喫煙、12%が過去喫煙であった。飲酒が約39%の喉頭癌を説明するが、飲酒単独ではリスク上昇がないため、これは喫煙との相互作用によるものと考えられる。

結論：

現在喫煙している人を禁煙に導く予防努力が、この地域で喉頭癌の罹患率を下げるのに、最も効果的方法であると考えられた。